



岷江入楚

鈴虫

弟亦七

特別
~ 12
4604
37



75
112
4604
37



鈴虫

五十歳

董三歳

小汀文庫

夏入乃文信書抄仙中
 入乃文信之案交抄中
 秋入乃案院寢殿作抄野放中
 十五夜月入乃案院月取抄案院卷多抄中
 松虫能出取之抄中
 冬入乃案大抄案案文抄中
 源公案取抄案抄中
 月卷抄案院抄案抄中
 源公案取抄案抄中
 夏入乃案院抄案抄中
 中入乃案院抄案抄中

鈴虫

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

何 あり たる の 鈴 虫 少 かり けり 又 何 鈴 虫 少 かり けり

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

い 貴女 以 弁 并 初 秋 又 何 鈴 虫 少 かり けり

らうりらうりあわれさうり
*ふ条院代ノ邊へ
入るのいぢまの

わらわりの
*ままより

わらわりの平生の致しあはれを云わねばうらやまの
いづいとおとの君れわらわりの

必しわらわりのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故
ふ条院をわらの志等しあはれ

やそとわらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

花机覆鎌文沙目條之應和元年五月十八日
始積名置花足下机机花文後覆二也後比敷

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

わらわりの
*あまのいづれを執をもりて今痛きをもさゆる故

畧茶羅 名義才七 偏文五選

り墨方陀羅

ニシラニ
付作

こつてんあぢまゝの
心三三ノ心おぼし

天曆九年正月廿日村上天皇
母衣被供養定筆付を存有
八海

私原ノ自筆ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

心三三ノ心あはれ

ぎやうりくねん

私行書

又清行の人のことあり

國白胡麻其府中弓矢治候 胡麻暮多行北行に
法々人教或八人或口人

後しわあつふくくねん
後ては今のあつふくねん

まこのつらのおすまを入場よあそねん

~~~~~

~~~~~

~~~~~

必 誦説やんくひろふて 睡すあふん  
人のけんくろく

上への  
後物三三  
只たノ  
まうり

れめめあつらぬ

ま せに文の人のことあり

あつらふあつらふ

おうしきくそひきり

ま すし物よつらあつら

ま 女に也暑氣のけり

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



わらわもたにうわん物と云  
你の心せぬ家か源一も徳のあらそく世成ふ口  
経より源の現存の付あふしとくをほそりしと  
りしはのちに  
先公今生うていふこの徳をいふはすのりふとく  
あめれ中のやうり  
一々地中華盡偏華と惣先性生人各留半片亲華  
葉待我爾浮同行人 五舎讚

源  
くろくしをとおのしうてなと聖徳よと云はれり  
五舎讚一々地中一とらりとははふかくなると云  
のわつとくともいふり矣  
くろくしを扇  
必后の扇あり 矣  
香深扇

卷七三六

くろくしを扇  
必三文のち源一の世にともあふしとくそく  
如云へたらとく行末のつ契りたりと源一御上二道二ハ  
はねのこトイへん可也  
す源一仏を入しとくそく又御上二道二ハ  
くろくしを扇  
くろくしを扇  
くろくしを扇  
くろくしを扇  
源一御也

棒物

七僧法服 障巾 接巾 尼殿 三礼 唄 秘月御之  
法記云天徳四年六月九日廿二日理子内親王家於同城寺  
終用中九日行けし其法給具及七僧法服新物等預給令  
訓備使近方将伊済誦給布施訓布二百端又差侍長  
五六十人二九行香役

うしろの人の世よあんこなまじりてきてたりや  
其のいやはいささかうらやましくも人々

ひらきしるこまあり  
必すも地也  
ひらきしるこまあり

二三文の家のもの  
あつたうらやまのまじりてきてたりや  
源と女とのものあり

秘年古なり

ゆきけきこあり  
可寛ユダキキ 古年古なり  
し海師尚村あり  
これり

ゆきしおのみし  
必すも地也  
院よまじりてきてあり

必六条院あり

うくとおほし  
必省略あり

ゆきしおのみし  
倉在露雨に雲初寒汀鷺立重疊烟嵐之好也  
寺僧帰 因賦

必名傳も旧布施推物も  
ふこまそつとけし  
みれちうらやま

必心布施のたは  
ありしるこまあり

いささか

院のみしるこまあり



必三三の夜

必三三の街

後のふらふらしいるまゝにゆふと居られにやうなるし  
わらわらしたるものにと三三のしりしりしたるものなり

人よよこころからいふとぬく  
三三の街  
此の三三の夜もなほきこゆのさよふはあはれはあはれ  
ゆふよはなほあはれはあはれと梅本れるはくさうては此  
よあかしのぼくさうれぬ人よこころをわすれぬもの  
よこころにいふとこころぬかぬよよはあはれはあはれ  
いふよよはあはれはあはれと三三の街はあはれはあはれ

三三

五夜の月のまじりけあはれ

必三三の夜  
八月十五夜にあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれはあはれ  
あはれはあはれはあはれはあはれ  
あはれはあはれはあはれはあはれ

原ノ三三ノ方におちす

りのひいしけいけいけいけい

わらわらしたるもの

三三の街

必三三の夜

中三三の夜

必三三の夜

あはれはあはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれはあはれ





この内をみくともさあ 契々之の物たるすべからず  
必原のやせ之文字の所をさあ 一りりぬあて  
内ふともふともぬあて

夫とと柏木を移す 契々けりさ  
此等の所わくひよりふとぬりぬるも

契々しり此泉院よりぬるうこわりけりさ  
契々りた大弁の所ぬる大長式之入備の茶園より  
何い人の此泉院よりぬる

契々しり此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬるうこれさ 後也

私に契いりてあり秘に契々さささ

契々この人よりけりさ 契々此泉院よりぬる  
契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる  
契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

必わささの月を一人のささのさわりぬる  
必海印よりぬる 契々

契々よりぬる契々此泉院よりぬる

必海印よりぬる 契々此泉院よりぬる  
契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

必海印よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる

契々此泉院よりぬる 契々此泉院よりぬる

水使を盛ぬひそりくいとにあ

可祿元三二

人の西車三ついのまに

必銘吉ノ家ありてありしとまうれと御よりりぬと

院の西車よここてまうり

大将右生の侍ありて 不入系圖何

必左の侍は任たたの子系圖よりなりて此記もあり

中上と系圖にた中の侍ありて致任の子ありては又記

系圖ノ外ノ人我しありてはなりては

下かきわたり 必衣布袴する西宮抄云と鵬若衣長下長下記後

使不常る 必是の源がト書て文二人りりぬと

あながとわきとわく

契 車のよりりてや也

源がと人よりりてわわりの西ははしりて

うりりてわわきいありて

必源の作御とわしりて 券

源ノこゝの西車りの西也

わひとのひぬん

必此泉院の西也

ちり書可也

又此泉院可也

必此泉院可也

中宮の西も

必此泉院可也



いづれもくちのいづれもいづれ

心原の句

あつちもつたわ身はわらへ

必 元号の早下り句

天原の早下り句

あつちもつたわ身はわらへ

源よりとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

仍るあつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

世はあつちとまむのむと

浪遊のむとまむ

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

必 中文の早下り句

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

いふようけぬとまむ

わらのいづちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

必 松好の中文のむとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

中文のむとまむ

この人のむとまむのむと

必 中文のむとまむ

松好の月林のむとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

ぬこよまむのむとまむ

あつちとまむのむとまむ

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

あつちとまむのむとまむ

あつちとまむのむとまむ

必 松好のむとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

あつちとまむのむとまむ

あつちとまむのむとまむ

必 松好のむとまむ

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

あつちとまむのむとまむ人いれお家いそむのむと

うねのうらら

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
私何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 海の何れを

ふりりあつた

必 此泉流の位の時にあつたの女侍更なるは服ふりて定む

必 世も大なるを常をいはず知るを 七言絶句

ひしやうつらるるあつたの

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて  
必 何事も海をよめるのなるいんをいひたるやうららとて

世の中家の原のつらみは何しめわらぬわらぬ  
世のあり

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらのまねはあまのこころにあらぬわらぬわらぬ  
のわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ  
わらぬわらぬわらぬわらぬわらぬわらぬ

わらぬ









